

第7回 由良川大規模内水対策部会を開催

～内水による被害軽減対策の進捗状況を確認～ 福知山河川国道事務所

由良川大規模内水対策部会は平成30年7月豪雨の内水による浸水被害を受けて設立され、下流部輪中堤地区及び中流部の内水による浸水被害軽減対策の取組を行っています。

第7回部会では関係機関が連携して進めている由良川流域における内水被害軽減対策について取組の進捗状況を確認しました。また、新型コロナウイルス感染症対策として、パーティションの設置、マスクの着用、手指消毒、検温等を行い、出水期に向けて活発な意見交換を行うために、対面での開催としました。

○日時：令和4年5月23日（月） 13時15分～13時50分

○場所：あやべ・日東精工アリーナ

○出席者：福知山副市長、舞鶴副市長、綾部副市長、
宮津副市長、京都府建設交通部部長、
京都地方気象台長、福知山河川国道事務所長

○議事概要：①各機関の取組の進捗状況の確認
②今後の予定

会議の様子



各機関の取組の例

■福知山市：河川機械設備革新的技術実証事業（マスプロダクツ型排水ポンプ設備現場実証）に協力可能な市町の1つ（全国6市町）として選定され、今後は国土交通省と連携し、検証を行います。

■綾部市：平成29年度から整備を開始した雨水ポンプ場が令和3年度末に完成し、令和4年度から供用開始いたします。



土木研究所での実証試験



各委員からの取組報告(抜粋)

■舞鶴市：輪中堤整備の完了により顕在化した内水による浸水被害に対して有効な浸水被害軽減対策として排水ポンプや止水壁などのハード対策は何ができるか検討を行います。

■宮津市：市内各自治会において地区防災計画策定に向けた説明会を開催し、地区防災計画作成を推進します。

■京都府：大野ダムでは、令和3年6月より目標水位 E L 150.0mとする事前放流の運用を開始することで、洪水調節容量が現行約2,100万m³に加えて約180万m³の容量を確保することができます。

■京都地方気象台：洪水キキクルにて、中小河川において、本川の増水に起因する内水氾濫（湛水型の内水氾濫）の表示改善に取り組んでいきます。

■福知山河川国道事務所：内水被害軽減のため、外水位を下げる対策として河道掘削や樹木伐採を行っています。また、洪水時には市町が行う水防活動の支援や拠点となる「由良川防災ステーション」を開所しました。

